

令和7年度 第2回長崎市文化振興審議会 議事録

日 時：令和7年10月9日（木）15：30～17：30

会 場：市役所15階 中会議室

次 第：

- 1 文化施設の使用料の見直しについて（報告）
- 2 新たな文化施設の整備等について（報告）
- 3 芸術文化振興プランにおける取組みについて

次第1 文化施設の使用料の見直しについて（報告）

【事務局】

<文化施設の使用料の見直しについて事務局から説明>

【会長】

使用料・手数料の見直しについて、報告ということなので、ここで例えば、安くしろということは多分できないと思う。このような方向で整理をするということになる。ご質問があれば受けたいと思う。

【委員】

現行プラス冷暖房と書いてあるが、冷暖房を使わなくとも、この値段を払わないといけないということか。

【会長】

この表を見る限り、使っても使わなくても冷暖房込みなので、そのような理解になる。

【委員】

使わない方からしたら厳しい。使わなくていい時期に、そこの会館を使うときに、この冷暖房代がプラスされるのは結構大きいので、それはちょっと厳しいと感じたがどうか。

【事務局】

今回全庁的な見直しの中で、一律、冷暖房料金は施設のその部屋の維持費に含むという考え方で、使用料を冷暖房込みで改正をさせていただいている。よって、ブリックホールとチトセピアホールについても、同じ取り扱いで改正をしたいと考えている。

【事務局】

今の説明を補足するが、例えば春や秋に気候がいいときで冷暖房を使わなくてもいい時期にその料金を払わされていると感じられるのも当然だが、逆から見ると、冬や夏にものすごく冷暖房を使うが、その分を標準装備すべきものということで、年間の料金を皆さんで平準化しているという考え方であり、使わなかった人が損とか、その年に1回だけ使った人はそうかもしれないが、年間で平均的に使う方からすると、結局全部平準化しているため、その分多く料金の方いただくとか、そういう考えにはなってないということでご理解いただければと思う。

【委員】

管轄外のことではあるが、私どもは市民会館を使っている。あちらは生涯学習施設課の管轄であるが、同じような改定がなされると考えてよいか。

【事務局】

おっしゃるとおりである。今回全序的な、すべての長崎市の施設についての改正ということになるので、市民会館文化ホールも冷暖房込みの料金で改正をさせていただくという形になる。

【会長】

確かに使わないときはちょっと負担感があるよう思うが、しょうがないと思う。余談ではあるが、長崎の路面電車は、もう気候がよくなつても、冷房をつけたり、まだ寒くないのに暖房をつけたり、長崎には心地よい季節がない。ただホールの場合は、例えば楽器とか施設の管理なんかもあるので、湿度調整っていうことも必要かなっていう気がするので、それは、仕方ないのかなと思う。ただ全体としては、冷暖房込みとはいえ、料金が上がったという感覚はあるが、これはちょっとここで議論しにくい部分だと思う。こういう方向だという報告になる。

次第2 新たな文化施設の整備等について（報告）

【事務局】

<新たな文化施設の整備等について事務局から説明>

【会長】

まず予算がついたのは第一歩だと思うが、これを作成するのに2年掛かるのはどこがスピード感か。すでに2年遅れてまた2年。今年の3月までのサウンディングは何だったんだろうとの素直な気持ちはある。時間が大分先になったと思う。皆さんに質問する前に整理するが、今回その予算をつけて、具体的に提案、可能性を伺い、先程説明があった我々が作ったプランを縮小し現実的なものにするのももちろんあるが、はたして民間の手が挙がり、採算が取れ、確実にホールができる見通しのところまでこの1年半で作るのか。それとも考え方はこういうのがあるが、業者のどなたか手を挙げてくださいというところまでしか作らないのか。

【事務局】

まず今回の導入可能性調査を行うにあたり、その結果で新たな文化施設をどう作るとか作らないとかの議論にはならないと考えている。新たな文化施設をどういう事業のやり方で作るのか、どういう枠組みで、例えば行政と民間が手を組んで作っていくのかをしっかり調査をさせていただき、文化施設を作るにあたり民間がなかなか参入しにくいということに万一なれば、当然ながら、従来方式という、市が主体になって作っていくことにもなろうかと思うし、我々はそうではなく、民間の様々なアイデアや知見をいただき、民間の協力をいただきながらよりよいものを作っていくことを今回の調査をかけるので、今会長からご心配のご意見があったが、今回の調査で文化施設そのものが全部白紙になるようなことは想定していない。

【会長】

そうだが、3月までのサウンディングで可能性あるいは課題も、市役所跡の土地でやる場合にはなかなか周辺施設で収益を上げていくのが難しいとか、上に物を作るのが大変とかいくつか示されていた。そういう既に課題が示された中で、さらに今後投げかけて民間と一緒に化する、あるいは民間のお金も入れながら、今後、ホールを作り、それを運営していく可能性については、今なんとも言えないがそれをシンクタンクに問うわけで、でも実際それに手を挙げる業者やJVに危うさを私は感じるが、今のところ期待が持てるか。

【事務局】

まさに昨年1年間掛けてしたサウンディング調査が、我々はここに文化施設を作りその隣

に民間収益施設を作りにぎわいを創出していきたいがどう思うかとのアイデアをいただく期間だったが、そのお話の中で、業者からも事業に非常に関心が高いこと、実際に我々がそれを進めていく場合に複数の事業者が参入意欲があることを確認させていただいたので、今回この予算を取り次のステップに進むので、そこは基本的にサウンディング調査の中で一定意見を取っている。

【会長】

成果があるといい。もう少し早くできないかという気はする。どんどん物価が上がるし、建設費は今後下がっていくことがなかなか難しい。2年でも随分上がった。その辺はちょっと心配している。

【委員】

信じたいが、さっき、もしこれで民間がだめだったら市が主体的にと言われた。だったら最初から市が主体的にしたほうが、とにかくスピードが最優先との話になっているからとも思う。民間の知恵を活用したほうがよりよいものができるだろうとの観点からそう思われる気持ちはわかるが、結局建てる場所も、もっといい場所があるんじゃないかと1年間過ごして前のままになったし、結局元に戻り、市が主体的にしたほうがと、要するに時間がかかり値段が上がるだけになる不安はあるのが正直な気持ち。

【会長】

なかなか気持ちはあっても言いにくい部分があるので、早くそれは前に進んでいくといふと思う。

【委員】

皆さん多分今出てきた意見で思いは同じで、よりよいものとなるべく早く作りたい気持ちで皆さん一緒だと思う。よりよいものというのはおそらく、建った後も、運営上のよりよいものだと思うので、現時点では、市はこれが一番いい方法だと考えているとの提示だと理解し、今回予算がついたのでこれでいくと理解したが、やはりこの文化振興審議会の希望としては、少しでも前倒しできることがあれば、ぜひ前倒しするようなスピード感を持ってあたっていただきたいと希望を出すぐらいしか申し上げることはない気がする。実はすごく大事なところで、市が直営でやるのか、民間にある程度本当に委ねていくのかは、今おそらく行政のあらゆるところできっと問題になっていることだと思うので、その時点で長崎市がそういう方向でやるという行政の方針を持っている以上、それに従っていく形しか取りようがないのかもしれない。ただ私たちは、やはり様々な面で運営がしやすくその上の効率的というのが文化の振興に資するという結果に繋がっている施設であることを希望していることはここに出しておきたい。

【委員】

新たな文化施設について、子どもや親子の利用という観点から 2 点質問。1 点目、授乳室やキッズスペースなど、親子のための設備内容や設備の数など、現時点でのような構想をされているか。少し早い話題かもしれないが、最初に作っておいたものを後から広くしたり作り直したりすると大変なので、今の段階での考えを聞いておきたい。2 点目、長崎市の文化施設は観光施設としての役割を兼ねている場合が多いため、市内の子ども、親子が教育や文化に触れる目的で日常的に利用する場合は、併設されている飲食店、周辺の店舗の価格設定が高いと感じることが多々ある。新たな文化施設についても、施設内や施設周辺に店舗を誘致する可能性があるかと思うが、その際の価格帯やコンビニの誘致、持ち込み飲食の可否などについて、現時点での長崎市側の考えがあつたら教えていただきたい。

【事務局】

まず 1 点目の新たな文化施設への授乳室、キッズスペースの整備だが、この審議会で議論していただいた基本計画の中で、授乳室、キッズスペースは、きちんと整備しようとなつてるので、これに沿つて、我々もしっかりと進めていきたいと考えている。それから 2 点目の飲食店、レストランについては、基本計画の中にしっかりレストランや飲食店を作ると記載はしていないが、先程から申し上げているとおり民間の方々がそういう提案をされる可能性は十分にあるので、そういったものが例えば施設の近隣にできることはもしかしたらあるかもしれない。ただ、その料金設定について、低価格にするなどは今のところ私から申し上げられない。

【委員】

多くの市民が利用するために、保護者側が文化施設に行くのをためらわない環境づくりも重要だと思うので、周辺店舗の件も含め、今後もご計画をよろしくお願いする。

【会長】

今ご指摘いただいた日常的に市民が使えるにぎわいを作っていくのは、この審議会でも随分議論してきた。イベントがない時にはブラックボックスになつてしまうので、だからこそ市役所跡地ににぎわいの場を作ろうということだった。

【委員】

他の委員同様私も少しでも早く色々と前倒しに進んでくれたらいいと思っている。今年度行う今回の導入可能性調査だが、すでにこれを頼む業者に聞いて 1 年間かかるとのことだったのか。もう 1 点、前回の会議の時にもずっと気になっていることで、練習室問題は、結局一緒に先延ばしになっているので、新たな文化施設ができると、ブリックホールの国際会議場の改修、会議室を練習室にできないかとの検討も、まだずっと先になるとのことです

っと先延ばしにされていると思うが、これがもし概ね2～3年がどんどん1年ずつずつと遅れていった場合、いつだったら前倒しの可能性もあるとかその審議ができる可能性はあるのか。今の段階ではもちろん新たな文化施設ができるからとこの前も言われており重々理解をしているが、概ね2～3年がどんどん延びていった場合、その審議をする機会は今後もあるのか気になった。この練習室問題は、5歳が15歳になる10年先に練習室ができるもとい、子どもたちにとってはすごく重大な10年間なので、いろんな子どもたちが技術を親しむ機会、練習をする機会がどんどん減っていくし、今している人たちも高齢化してしまうので、一刻も早くこの練習室問題は解決を図っていただきたいと思うがいかがか。

【会長】

練習室はこの前も少し議題になっていたので、また改めてどういうふうに工夫していくか協議することになる。新たな文化施設ができるのを待ってたら何もならないので、前の長期プランとして、新たな文化施設ができたらブリックホールを改修し、会議室もメッセにできたので練習室になればとの話があったが、それも遅くなるので、もしかしたらその順番を少し入れ替えるとかの議論をいつできるか。そういうことについて、総合的に市の文化施策として協議をする場はあっていいと思うが、いかがか。

【事務局】

まず1点目の今回予算を上げた導入可能性調査が1年ぐらいかかるとの話だが、資料に載せているとおり、これだけの内容を今回調査し、できるだけ早く文化施設の整備をしたいと、我々の予定を複数事業者に聞いたうえで、やはりこれだけのものを調査ししっかりしたものを作るには1年はかかるだろうとのことで、令和8年、来年度まではこの調査の時間をお聞きたいと考えているし、そのぐらいの時間は必要だと思っている。それから2点目の練習室の話だが、これが一番の今長崎市が抱える重要な課題のうちの1つだと我々も認識しており、例えば、今実際に使わなくなった施設、既存の施設をうまく練習室に転用できないか、代替施設として利用できないかも、少しずつ検討している。そういったところも含め、また皆さんにしっかりとご意見をいただきたいし、昨年作っていただいた振興プランにも練習室の件は検討していくとしっかり記載をしているので、またこの座組の中でお話をさせていただきたいと考えている。よろしくお願ひする。

【委員】

質問になるかもしれないが、この文化施設を含めた周辺を含めての設計、プランになっていることで、時間が余計にかかると感じてしまうところがあり、文化施設自体を作れる敷地やそういう可能性が広がるならだが、もちろんまちとしてまちづくりの観点も含め周辺にぎわいはすごく大事だとは思うが、文化施設を抱え込んだその周辺の設計になっていることで余計にとの印象があり、文化施設の中身をどう作れるかを優先して進めるとの話には

ならないか。

【事務局】

まさに今の質問は2年前の6月頃の設計の段階に進んでいく時点で、一旦ちょっと立ちどまって考えるとの話かと思うが、当然あの時に設計に入っていたら、もしかしたら今頃はもうさらにどんどん進んでいるというところで、時間短縮はもちろんあったかとは思うが、やはり市役所跡地に文化施設だけを建てるのではなく、先程の絵の横の余剰地や前には公園ができるところも総合的に含め、長崎市にとって非常に重要な場所なので、文化施設の整備も急がないといけないのは重々承知をしているが、やはりあそこのエリアの最大限ポテンシャルを生かすよう我々は考えるべきだというところで時間をいただいており、今回ようやく次のステップの導入可能性調査に移るというところになっているので、その中で文化施設だけを先に進めることはもう現時点ではちょっと難しいと考えている。

【会長】

我々はできればここだけとも思うが、そうではなくやはり周辺一帯として考えていかないと、今後どうやって運営するかもあるし、例えば建設費の問題等も実は大きく絡んでくるので、なかなか難しい。ただ方向性としては、もう全体を一帯としてエリアを作っていくと進んできたと思う。

【委員】

市役所跡地を通るたびに雑草がすごく気になって、あと7年後だったらジャングルになってしまふんじやないかと思う。文化振興課が一生懸命作ってくれたこの表も目にして、どうかとの意見は難しいが、ただこれを私たち文化に携わっている人間に何ができるかを考えたときに、やはり新たな文化施設の1つのセールスポイントとして、今スタジアムシティもそうだが話していると平日の空き日、催し物をしていないときにやはり閑散としているところがあるが、新たな文化施設では文化団体が一致団結して毎日何かしてくれるようなことが、組織の中でそういうものを作って、例えば今おくんちをしているが、おくんちの稽古風景、リハーサル、練習風景を新たな文化施設に行ったら見れるようなものを、利用していないときもちゃんとこういうふうにして稼働させるというのも、私たちの団体で提案でき、それを1つのセールスポイントとして売っていけばいいと思うところがあり、やはり稼働率で考えれば文化施設は絶対儲からない。それはどこでもそうだし、文化施設にレストランを作ると必ずつぶれる。本当にそういうところだと思う。ただ、それが毎日稼働していれば、何かするんじゃないのかでもそれは1つのセールスポイントとして、今来ている業者に売っていけば、令和14年にできるのが少しでも早くなるようであれば、ちょっと頑張ってそういうセールスポイントを作る方向性があってもいいと思い、それを逆に文化振興課からそういう提案をしてもらえば、こっちで頑張れる。だから文化振興課が一生懸命作った結

果を見せられて、どうかよりも、こういうことをしてほしいとか要望があれば、こっちも頑張れる気がした。

【会長】

すごくいい。建物ができるのを待つのではなく、こういうふうにこういうものをしたいからと、むしろこの審議会はそういう提案が最もできると思う。それは多分文化振興課の予算にとっても援護射撃、材料になるので、ぜひそんな話もできる。それこそ芸術振興プランの中でしていく市民文化活動の活性化の 1 つの方向性。そういうことを皆さんで意見を出し合い考えていくのはどうか。

【事務局】

今、委員からあったご意見は非常にありがたい。しっかり我々からも、こういう提案を出してくださいなど、一緒に作り上げ、できるだけ我々も整備を前倒しできるように努力するし、それまでの間も、できたときに本当にいい施設、いい運営ができるようなことも一緒に考えていただければありがたいので、よろしくお願ひしたい。

【会長】

前向きな意見が出たところで次の議題に。

次第3 芸術文化振興プランにおける取組みについて

【事務局】

<芸術文化振興プランにおける取組みについて事務局から説明>

【会長】

以前の文化振興協議会で、年に1回ぐらいは前年度の事業の振り返りをしたり、委員には交代でどれかの事業に参加いただき感想いただいたりとか、あるいは文化振興課の担当から報告いただいたりする時間があったが、ここしばらく新文化施設のことで精いっぱいになかなかその時間に取り組めなかった。今日は今行われている事業について、芸術文化振興プランとつき合わせながら、ご意見をいただければと思う。先ほども話があったが、今ピース文化祭真っ最中で、委員の皆様それぞれの分野で関わったりしているが、それも踏まえながら。これをどうやって次につなげていくかという辺りは思っている人もいるだろうし、それから今回ピース文化祭の大きなテーマとしてジャンルを超えて、違う分野の形の交流みたいなことを積極的にあればいいということで、組まれてるところ。そのような点も踏まえて、いかがか。

【委員】

邦楽は10月5日にピース文化祭の一環として、全国邦楽フェスティバル in 長崎を実施した。有名なプロの演奏家・作曲家に来ていただきて、テレビとか雑誌でしか見にかかれないような人たちがたくさん参加されて、邦楽で千人以上集まるのはめったにないことで、非常によかったです。私たち長崎市三曲協会としても、全国組織の人たちと一緒に運営ができて、横の繋がりも非常に深まり、これを1つのステップにして頑張りたいと思っている。元に戻るが、やっぱり1等地の市役所跡地は例えば民間の土地であったら、4年間も5年間もほったらかしにして幾らの損失になるんだろうかと。県庁跡地も。本当にあそこに、人が集まるものができたたら、経済的なものすごいプラスになったんじゃないかなと思うので、本当に1日も早く作って欲しいと思っている。

【委員】

見ながら反省をしてきたところだが、ながさき文化のひろばをもっと活用しないといけないと思いつつ、なかなか市のそういうホームページ含め、なかなかパッと入ってパッと見えないというところが正直感想としてある。日常的に自分自身もこう見る側としてもなかなか見てないし、活用をもっと自分自身も発信も含めてしていかないといけないと思った。

【委員】

今年はながさきピース文化祭があるので、ガイドブックとかを見て、何があるのだろ

う、これ面白そうだなと思って拝見することが多く、そこに足を運ぼうとは思ったりする。ピース文化祭が終わって来年度になると、ガイドブックのようなものがないのでわからない。自分から進んで調べることをあまり日常的にしないのでわからない。何かこういうちょっとした、何か探すもののようなものが手元にあると、文化に触れてみようかという機会がちょっとは多くなるのかなと思う。

【委員】

演奏関係だと大きなホールだけではなく、いろんな場所でされていて、チラシだけもらってネットで見ようとすると、あんまりなかったり、情報が非常に少なかつたりするので、ジャンル分けして見れるようなものがあるといいと思う。いろんな場所とかやり方はあると思うし、空き施設の使用というのが非常にポイントかなというふうに考えている。特にアミュプラザの前のステージは頻繁にイベントがあると思うが、市は関係しているのか。

【事務局】

あの広場はJRが管理している。この前ピース文化祭のプレイベントをやったが、ピースの方はそこを借り上げて、市の主催のイベントをやることも当然ある。今後あの広場を使った市の関連の行事というのも、文化だけではなくいろんなジャンルで実施するということはある。

【委員】

すごくいい発信の場所と思うし、天候面とか使用の制約があるのかもしれないが、通りがかりの人に周知してもらうためにはいいと思う。

【会長】

今話があったホールだけでなく、いろんな場面で文化活動をやっていて、長崎市ではまちなかでも頑張ってやっている。それからご指摘あったどうやって伝達するかというと、市の情報誌を2か月に1回は発行している。皆に届けるのは難しいところだが、工夫をしていかないと、それを引き続き考える必要があるかなと思う。

【委員】

デジタルを活用しつつ、芸術文化に触れるというのは、どのようなことをするのか。

【事務局】

今日日常的にDX化とかよく言われているが、芸術文化に関しても1つの手段として、デジタル技術を活用して、芸術文化を楽しむとか、触れるとか、それを体験型でやるとか、今検討している。こういった技術を使ったら今までできなかったことができるという気づきとか、

あとは創造性、そういった機会を提供したいというところで今やっている。

【委員】

シーハット大村でメタバースを使ったアート体験があるので、参加されたら参考になるとと思う。

【会長】

京都市が、チームラボと一緒に空間を作って、そこに参加する人もアートの一部になっている。京都市が新たな観光としてやっていて、すごい。

【委員】

市民美術展を市と一緒にやっていて、公募展離れが多くて、ジュニアの展覧会もあるので、頑張っているが、ジュニアの方は出品料がないので、大人の方で運営している。今回出品料も上げたが、出品者が少なくなるのではないかと懸念をしながら、何とか続けていかなきゃいけない。市の方で補助の方ももう少し増やしていただけるとありがたい。

【委員】

演劇協会は来月の 15、16 日でミュージカルをするが、やはり稽古場がない。練習場所がないのがとても大変で、みんなで取り合いしてのような感じ。今回ミュージカルをするにあたって、演劇協会の役者でやろうかと思ったが、演劇人口を広げたいと思い一般公募をやった。一般公募で 40 人ぐらい集まって、その方達も一緒にみんなでやろうかということになったが、最大の課題は、ミュージカルが終わったときに、その 40 人がどこかに行っちゃうのかと思って、そのあとやはり演劇を続けて欲しい。じゃあどうやって続けていくのかということはこっちで提案してやらないといけない。アウトリーチとか、演劇体験とかダンスとか、やってもらった人たちが、じゃあそれをやったことによって、文化の方にどうやって入れていこうかっていうことを、もう少し何か考える余地があるのかなと思う。

【会長】

何らかの仕組みを作っていくかといけない、それは演劇に限らず、他のところもそうだが。今回のピースで金沢さんが百何十人集めてるんですが、それで全員の出番を作ったのはいいが、その先をどうするかって金沢さんがすごい悩んでいた。ピース文化祭をどうつないでいくか考えたい。

【委員】

今回ピース文化祭のコンサート系の音楽に関するイベントで演奏したりとか、スタッフで入ったりする中で、子供たちやお客様の声をじかに聞く機会も増えて、例えばどこで何して

るか、どうやったらわかるのかというふうな話を聞いた。今回ピース文化祭は公式ガイドブックもあったし、会場にブースがあってわかるが、普段のそれ以外のチラシとかは、どこで何してなのだろうか、どこに行けばわかるのっていうような声もよくいただいていた。今回委員の話を聞きながら思ったが、庭見世のマップを作られてたりとかアプリがあったりとか、おくんちに関してどこで何やってるか分からない時はない。例えばホームページ確かに私もちよつと使いづらくてなかなか見ないが、ピース文化祭はインスタを更新していて、週末あるなというのはよくわかるので、ホームページの形とかもちよつと変わったらわかりやすいなと思う。

【会長】

広報はワーキンググループを作って、集中的にやるのはどうか。

【委員】

市民ひろばが9月から始まった情報はどこにあるか。

【会長】

9月から利用が開始してるという話だが、それをどうやって案内されてるか。

【会長】

私も知らなかった。その辺はどうか。

【事務局】

情報の充実度が欠けていて申し訳ない。ブリックホールホームページで情報発信を行っていたが、文化団体の方々に直接発信すること、配慮がちょっと欠けていたと思う。

【会長】

せっかくだから、オープンしましたって皆さんに言ってもらった方がいいかもしれない。

【委員】

この振興プランを見ているとやっぱり芸術文化を担う人材の育成、これはとても重要なことだと思う。このピース文化祭を皮切りに、もっともっと長崎が次世代の方に、繋いでいくらいいなと思う。私どもは会員制の鑑賞であるが、劇団を迎えるにあたって、搬入搬出も劇団と一緒にやる。その中で会員が60代70代80代になっており、市民会館の坂道入り搬出はとてもこたえている。その中で先ほど使用料が変わるということで、私どもが使っている市民会館は生涯学習施設課の管轄だが、私どもは今文化ホール以外にも体育館、音楽室、それからリハーサル室を貸し切っている。それは何のためかというと、音押さえ。マイクを使

わない、生声の新劇を鑑賞する団体なので音がしては困る。そういった中で本当はただの音押さえだから冷暖房がいらない。それが冷暖房込みの使用料になるのかというのが、事務局の私としては大きな問題。

【委員】

今度の日曜日中山流の日本民踊の全国大会を行い、私ども長崎民謡舞踊連盟が公演をする。今回は長崎市のながさきピース文化祭2025の長崎市地域文化発信事業として主催者が文化庁、厚生労働省、長崎県、長崎市とそれぞれ県市の実行委員会と中山民俗舞踊研究所、たくさんあるが、主催を代表して長崎市長にご挨拶をいただく。まだ若干当日券も用意している。今回この市のガイドブックにも、県のガイドブックにも、そして週刊あじさいや、今日長崎新聞の方にも載せていただいて、非常に問い合わせが多い。今まであまり我々の民踊をご覧になったことない方が今回は見ていただけるんじゃないかということで、非常に期待をしている。それでこのピース文化祭を通して、やっぱり一番はただの祭りということにするのではなく、先ほども何人かおっしゃったが、レガシーという、遺産を残していく、これを機会として、それぞれの団体がどういうふうにこれを生かしていくかということが一番の課題。それと県の主催事業として行ったダンス＆ダンスという、若い人たちを中心としたダンスの集まりの中で、日本舞踊や我々の民踊や、そしてバレエも、いろんなジャンルを一堂に会してやろうという事業をやって非常に大成功だったが、民踊や日本舞踊は、若い人たちがあまり触れる機会がないので、そういう人たちの前で披露できたこと、そして最後にはみんなで長崎ぶらぶら節を踊れたというのは非常に大きいことだったと感じている。それと、そのダンス＆ダンスは私が出張で北海道に行っていて、本番に参加できなかったが、そのおかげでうちの組織の若手の参加をするメンバーたちだけで、全部準備や、当日の運営、ぶらぶら節の進行も、全部させようというのを最初から考えていて、非常にそれがそれぞれの人たちのいい経験になったかなと思う。県が国民文化祭をやるということを決めたときに当時の県の部長がこの文化祭を通してそれぞれの組織の強化につなげていただきたいということをおっしゃった。先ほどから人材をどうやって育成していくか、例えばワークショップや、こういった文化祭のいろんなイベントで新たに文化に触れた人が、その先じゃあどうやって育てていくかなどは、やっぱりそれぞれの専門の団体組織に属してそこで育成をされていくしかないと思う。ずっとそれを行政が担当して、そういう人を引っ張っていくなんてことなんか難しいので、やっぱり我々文化団体がそれぞれの組織を強くして、その中で人材育成を取り組んでいく、それが一番だと思うので、そういうことに生かしていくかなければならないなというのを感じた。今日この長崎市の取り組みを見たときに感じるのは、今回のピース文化祭で、どれだけの行事が新たに企画されて、その文化祭のためにということで、準備をして努力をして、あるいは人材の育成に生かしてという形で行ってきたんだろうかというのを考えると、ちょっと私聞いたとき疑問に感じるのは今まで毎年やってるような事業をちょっとそれに色をつけてやろうかなくらいの、そんなイベントが非常に多いような

感じがした。それは主催する県の方の取り組むスピード感もあったし、準備をする時間が全然足りなかつたというのもあると思う。もっと大きく、計画的に実行委員会、企画会議等で見つめながらきちつと作っていけば、もう少し生かせたのではないかと感じている。

【委員】

私どもは県の美術館なので市の事業とは違うとは思うが、ピース文化祭関連としては皇居三の丸尚蔵館収蔵品展をやっていて、国民文化祭をやるところにずっと毎年皇室のコレクションの展示をやるというのが、実は今年までやることになっている。国宝の蒙古襲来絵詞というものが長崎にも関係もあるということで貸していただくことになった。ぜひご覧いただきたい。もどってプランの体系図の取り組みのところだが、こういう表の時に予算がついていると分かりやすい。それと、地域創造から助成金をもらってやっている事業をもうちょっと具体的に説明いただいて、幾らくらいの助成金でやっているのか教えていただきたい。というのはやっぱり県の予算だけじゃなくて、地域創造のようなところからきちつと予算を取ってやってるってとても大事なことだなと思っている。

【事務局】

音楽のアウトリーチ事業で、人材育成のところ、具体的には登録アーティストの研修だけではなく、市の職員やアウトリーチに興味のある人を対象に、今年の6月に研修をブリックホールでやったが、座学もあれば体験するということを地域創造と連携してやった。今後も登録アーティスト制度をもう少し質を高めたい育成したいというのがある。登録アーティスト研修とかオーディションが大体80万円くらい。2分の1を補助していただくところでやっている。令和8年度に向けては、少しだけ検討段階ではあるが、引き続き申請をして、アーティスト等だけに限定してやるのかどうか、座学だけじゃなくて実際に現場に行って、どういう対応ができるかとか、コーディネーターとも連携しながら、そういったところを指導していく研修していくような形をとりたいと思っている。

【委員】

今の指定管理者とか職員向け研修が入っていたり、いろんなことをした研修になっているのでいいなと思う。さっき広報の話が出たが、広報関係も一緒に研修したりすると、また膨らみができるかなと思う。ぜひ、アーティストやアート活動する人だけではなくそれを支える人の研修というところまで期待したい。

【会長】

今金額を聞いて、意外と少ない。ただ予算面で使いにくい面もちょっとあったり、どなたが来て指導してくださるのが大事な点なので、そうしないと、長崎はそういう東京のアーティストの消費の場になってしまっていけないので。

【委員】

今後の新しい文化施設の建設もなるべく早い方が望まれるが、それによって本番といったコンサートだけではなくて、何か常に市民とか子どもたちが集えるような、常設の音楽の体験のワークショップなりレッスンとか、それが単発的なものではなく継続して文化に触れ合えるような、そういった機会があれば良いかなと思う。

【委員】

資料の 5 ページ、施策の柱の 4 の (2)、芸術文化に関する情報発信の充実のところで 2 つほどお尋ねがある。(2) のところに広告媒体を使った PR というところ。SNS での配信という記載があるが、この後の 5 の (1) 次世代の育成というところにも関わってくるかと思うが、特に若年層の方々に対しては SNS を使って情報を届けるという手法は有効だと思う。ここに記載してある X・インスタグラムの他にも、もし実施したものがあれば教えてほしい。もう 1 つ、それらに対して閲覧数、保存された回数などがあれば、教えてほしい。

【事務局】

広報の手法だが、ながさき文化情報俱楽部スイッチという冊子を発行させていただいており、市内の公共施設とか、郵便局など、そういったところに配布をしている。それから各主催イベントの中では、必要に応じてチラシとかパンフレットを作って、周知を図っているところ。X とインスタグラムの配信の実績では今手元にないので、そこはちょっとお答えができない。

【委員】

現在子どもが公立小学校に通っているが、イベント案内が今は紙のチラシではなく専用アプリでの配信が主体となっていて、子供が直接チラシを見て参加したいという機会が減っているのではと思う。また保護者側も、いちいちアプリ配信の添付ファイルを開かないとチラシの画像確認できないというシステムになっている。実際にアプリ配信制度になってから定員割れをしてしまったというイベントもあった。ペーパーレスの時代に時代に逆行しているかもしれないが、小中学校への案内については紙媒体の需要もあるのではと感じている。

【会長】

確かにそのような声も上がっている。どうバランスを取っていくかはある。

【会長】

今後こういう場をまた作って、審議会と文化振興課が対峙するのではなくて、一緒に作って

いく。多人数の会議もいいが、少人数でテーマごとの会議でしながら、いかに文化をつないでいくか、或いは演技手、お客様だけじゃなくて横につなぐコーディネートする人とか、そういうその辺のいわゆるアーツマネジメントする人々は、長崎はもっと作っていかないとという感じがある。

【事務局】

いただいたご意見の中で大きなポイントがいくつかあったが、広い世代、老若男女にどうやったら届くかというのが、ポイントになったかと思う。それと文化の継承をピース文化祭を機会にどう進めていくかというところが、我々の課題ということで受けとめさせていただいた。今会長からあったように、皆さんでしっかりと一緒になって、その課題を解決していけたらいいと思う。

【事務局】

市民会館の体育館は確認したら競技の特性で空調を入れられないことがあるので空調なしも選べるように別料金にしていることで皆さんにも関係あると思うので報告する。